

(86) ニッキン投信情報

連載



2025年1-3月の株式市場は、軟調な動きとなりました。日経平均株価は四半期で10.7%、米国の代表的な株価指数であるS&P500指数は3.4%の下落となりました。そんな中、インド株の主要インデックスであるNifty50指数は四半期で0.6%の下落にとどまっています。さらに、4月に入ってからのトランプ関税をめぐる懸念でグローバル株式市場が急落する中においてもインド株の下落は相対的に小さく、貿易赤字国であるインドはITなど一部セクターを除いてその影響は限定的と見られているようです。

一方、日本で人気が高まっていたインド株ファンドですが、残高はピークとなった昨年7月末の3.9兆円から今年2月には3.2兆円まで減少し、3月末には3.4兆円まで回復しています（図表1参照）。また、資金流出入は昨年8月の株式相場の乱高下をきっかけに急減速しており、昨年11月には2年2カ月ぶりの資金流出を記録しましたが、その後は設定と解約が拮抗した状況となっています。

古くから設定されている残高の大きいインド株ファンドでは解約の動きが続いているものの、昨年以降に新規設定されたインド株ファンドを中心に資金流入を記録するファンドも見られます。また、インデックス型のインド株ファンドには自発的な押し目買いも入ったものと考えられます。図表2はインド株ファンドの資金流出入をタイプ別に集計したものですが、「ファンド市場ハイライト#1～人気沸騰で多様化するインド株ファンド」でも指摘したように、中小型株、テーマ型やインデックス型のファンドの登場で、インド株投資の選択肢が広がったことが資金

フローの安定に寄与していることがうかがえます。相対的にコストの低いインデックスファンドは今年3月まで一貫して資金流入となっているほか、中小型株を投資対象としたタイプでは新規設定のあった今年1月に資金流入を記録しています。さらに、長期的な成長が見込まれるテーマ型ファンドは、昨年12月、今年3月に資金流入を記録するなど、個人投資家のさまざまな需要を捉えているようです。

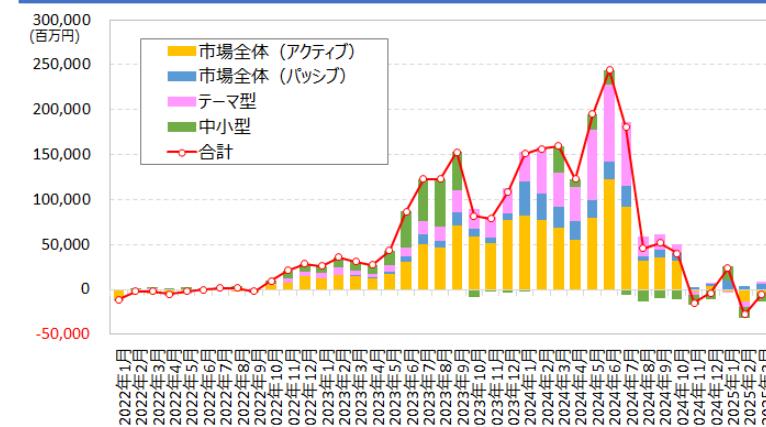
インド株相場は昨年夏以降、それまでの上昇が急ピッチだったことから、他の市場に比べて大きく下落していました。一方で、今年3月には世界的に株式相場が低迷する中で逆行高となるなど、足元で相対的なパフォーマンスは改善傾向にあります。関税をめぐる懸念から金融市場が混乱する中で、インド株や具体的なテーマの持つ長期的な成長見通しに再び注目が集まることも期待されます。

（執筆：BNPパリバ・アセットマネジメント 藤原延介）

図表1 インド株ファンドの残高と資金流出入の推移
(2005年1月～2025年3月)



図表2 インド株ファンドのタイプ別の資金流出入
(2022年1月～2025年3月)



出所:Morningstar Directのデータを用いてBNPパリバ・アセットマネジメント(株)が作成